

公立学校情報機器整備事業に 係る各種計画

香芝市教育委員会

目次	端末整備・更新 計画	1
	ネットワーク整備計画	2
	校務 DX 計画	3
	1 人 1 台端末の利活用に係る計画	4・5

【香芝市】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	6904 人	6722 人	6556 人	6368 人	6220 人
② 予備機を含む 整備上限台数	7939 台	7435 台	537 台	321 台	151 台
③ 整備台数 (予備機除く)	0	6722 台	0	0	0
④ ③ のうち 基金事業によるもの	0	6722 台	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	102.5%	105.5%	108.0%
⑥ 予備機整備台数	0	280 台	0	0	0
⑦ ⑥ のうち 基金事業によるもの	0	280 台	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	4.3%	0%	0%	0%

※ ①～⑧ は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和 7 年度について、令和 2 年度導入した児童生徒用端末すべてを更新し、香芝市内小中学校すべてに 20 台ずつの計 280 台を予備機として更新する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：7956 台

○処分内容

・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 700 台

・小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託 : 7256 台

○端末データの消去方法 ※ いずれかに○を付ける。

・自治体の職員が行う

☒ 処分事業者へ委託する (予定)

○スケジュール (予定)

令和 8 年 1 月 新規購入端末の使用開始

令和 9 年 4 月 処分事業者 選定

令和 9 年 8 月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

(「⑤ 累積更新率」が令和 10 年度までに 100%に達しない場合は、その理由)

【香芝市】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)
ベストエフォード回線を利用しているため、通信最大速度では必要なネットワーク速度はすべての学校で速度が確保されていたが、「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」(文部科学省・令和5年11月実施)の結果では、実測値として「学校規模ごとの当面の推奨帯域」(文部科学省・令和6年4月)を満たす学校はなかった。0%

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール
令和7年度にアクセスポイントなどの設置機器の入れ替えを検討しており、入れ替え後必要であればネットワークアセスメントを行います。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール
ネットワークアセスメントを行った場合、結果を踏まえ、令和10年4月から順次改善策の検討を開始し、令和11年3月までに対象校における改善策を完了させます。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

【香芝市】
校務DX計画

従来の閉域校務ネットワークを安全性の高いゼロトラストネットワークに移行し、セキュリティを確保しつつインターネットクラウド上に校務環境を移行することで、場所や時間に縛られず、安全で効率的な業務環境を実現します。

教職員は、インターネット環境さえあれば、校外からもメールや学習支援ツールにアクセスできるため、円滑な情報共有や迅速な意思決定が可能となります。さらに、閉域ネットワークからインターネットに業務の場を移すことで、ネットワーク間のデータ移動の手間が省略され、従来は紙で回覧していた情報や教育委員会からの通知等を、データそのままに回覧することが可能になるため、押印の廃止やペーパーレス化の促進等の事務処理の負担軽減にもつながります。

県下統一の校務システムの導入により、学校間の児童生徒の情報共有が円滑に行われ、教職員の負担が軽減されるなど、校務の効率化が大きく促進されたため、今後も「奈良県域学校教育 DX 推進連携協議会」に積極的に参加し、次世代の校務システムも引き続き利用していきます。

県域で共同利用している Google for Education や「GIGA スクール運営支援センター」を今後も活用し、教職員の ICT スキルアップと円滑な GIGA スクールの運営を支援します。

これらの取り組みを通して、本市の教育現場をより活性化させ、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す環境を整備していきます。

【香芝市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～において示された、「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現」を踏まえ、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等のICT活用を通じて第5次香芝市総合計画の基本計画に掲げた「すべての児童・生徒が安全に安心して、主体的・対話的で深い学びができる環境を整えます。そして、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成、多様な児童生徒一人一人の興味・関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びを提供し、児童生徒同士の学び合い、多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ、地域の構成員の一人や主権者としての意識を育成することを目指します。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に県域利用の校務支援システムを導入し、校務ネットワークや教職員1人1台端末を整備するとともに、児童生徒には学習系ネットワークのWi-Fi環境と1人1台のChromebookを整備し、奈良県下で共同利用するG Suite（現Google Workspace）のアカウントを教職員及び児童生徒全員が利用できる環境を整えました。また、令和4年度には各校のネットワーク回線を増強し教員用端末の追加調達を行いました。

令和2年度にICT支援員を4名配置し、年間600回の学校訪問を通じて教員のICTスキル面でのサポートや授業支援を進め、令和3年度からは指導者用デジタル教科書を整備し端末上での授業を促進しました。

児童生徒の情報活用能力育成と教員のICT活用指導力向上のためのロードマップの作成や、ICTスキルアップや情報リテラシーの向上を目的とした研修を開催するなど、積極的なICT活用を推進しましたが、教職員間や学校間でのICT活用状況の格差が存在し、児童生徒の受けられるICT教育にむらがある状態です。

奈良県や学校内の研修等の一層の活用や、ICT支援員からの働きかけ等を通じ、教職員間や学校間でのICT活用状況の格差をなくしていくようにします。

3. 1人1台端末の利活用方策

新時代を担う児童生徒を育む取り組みとして、学習活動におけるICT活用機会の創出があります。学習の基盤となる資質・能力のひとつである情報活用能力の向上を図るため、ICT機器を単に情報を得る手段としてではなく、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことを十分に行う必要があると考えます。そのために、知識・技能の確実な定着を図った上で、思考・判断・表現する学習活動を行う機会を確保します。

そのために、デジタル教科書や学習支援ツールのより実践的な活用を図ります。1人1台端末を用いて課題配布や回収等を行い提出物の一元管理や複数人の同時操作による情報整理・発信や意見交換等グループでの協働学習の実践をより進めていきます。

そして、学校における教員のICT活用をサポートするため、ICT支援員を引き続き配置し、ICTを活用した授業等を教員がスムーズに行えるようにします。また、市内全校にまたがって好ましい実践事例や教材の共有を行うことで、教員の業務改善も図ります。

これらの取り組みを実施するためには、1人1台端末が必要不可欠です。そのため端末の整備及び更新により、1人1台端末環境を引き続き維持していきます。